

## 【入選（中央審査）】【水の作文大賞】

### あのサウンドをいつまでも

熊本市立出水中学校 二年 森野 りん

「ザーザーザー」

「ピチャッピチャッ」

「チヨロチヨロチヨロ」

小川から流れてくる美しい水のサウンド。私のお気に入りの音だ。しぶきを上げて流れる水を眺めながら、時々「あつ、魚だ。」とつぶやく。自然に囲まれて江津湖を散歩する。気分が晴れやかになる。私の大好きな時間の一コマだ。

私の住む熊本は、「水の国」と呼ばれ、きれいな水が豊富な街だ。水道水は日本でも有数の地下水でまかなわれている。県内各地には千箇所以上の湧水地があり、たくさんのお水地があるそうだ。調べてわかったことだが、その名水地に私の大好きな場所「水前寺江津湖公園」、通称「江津湖」も含まれているという。

江津湖を散歩していると、しみじみ感じることもある。それは、虫や鳥や魚、草や花や木々が生き生きとしていることだ。話すことができるわけではないが、語りかけるかのように堂々と存在するのだ。キラキラと輝いていて生ききているのを見て、聞いて、触れてわかる。私までもが、生きているのを実感することができる。これが、生命力というものだろうか。

なぜ、生き物たちがあそこまで生き生きとしているのか。

それは、やはり江津湖の美しい水があるからだろう。人間は水がないと生きていけない。江津湖のあらゆる生き物も同じように、水と関わり合って生きていく。水は生物にとってかかせないものであり、生命の源となっているのだ。

だからこそ、水を大切にしなければならぬ。水は資源である。限り

がある。私たちには、果てしない未来に美しい水を受け継ぎ守り抜く、そんな大事な役割がある。

「水は大切にしなければならぬ」と誰もが言う。しかし、行動に移す人は少ない。私も口で言うだけの人の一人であった。

しかし、今はちがう。

熊本地震が起こった日。

「水、出ない……」

その時の衝撃は今でも覚えている。蛇口をいくらひねっても、水は一滴も落ちてこない。水がないと、トイレもお風呂も食事も、何もすることができない。結局、私は家族でやかんやペットボトルに江津湖の堤防からチヨロチヨロとわき出る水をためて、家に持ち帰って使った。その時は「不便だな」と不満に思っていたが、後から考えてみれば、自分は水に頼りすぎたことを実感した。

だから、今私は身近なことから「節水」をしている。歯みがきをするときはコップを使う。水道やシャワーは、こまめに水を止める。これらのことを毎日続け、水に頼りすぎる社会を、水に感謝する社会に変えていきたい。

「水に感謝する」というのは、水の存在に感謝するだけではない。水を管理し安全に私たちに届けてくれる人にも感謝、命を犠牲にして人間の食べ物になった生き物にも感謝。なぜなら、水を安全に飲むことができるのは管理してくれている人のおかげであり、命を犠牲にしてくれた生き物も、もとをたどれば水のおかげで生きていたことになるからだ。

すべての原点は水。水がないと私たちは生きていくことができない。

この世界には、水をめぐって戦争が起こったり、水がないことで自分を犠牲にしたりする人が多勢いる。いつかそんな社会を、世界中の人が手を取り合い、美しい水で命をつなぐことができる社会になってほしいと願う。その日が来るまで、私たちは水を守り未来へ受け継ぐべく、自分のできることから行動していかねばならない。私は、江津湖の水か

ら守っていききたい。  
そんなことを考えながら、水のサウンドを聞きながら、今日も歩いて  
いる。